

郷土芸能のハイスクール・デイズ

—全国高等学校総合文化祭の頂点を目指す郷土芸能部員たち—

坂本 麻実子*

High School Days absorbed in Local Performing Arts
—The Members of Local Performing Arts Club trying for Grand
Prize in The National Art Festival of High Schools—

SAKAMOTO Mamiko

E-mail: msakamot@edu.u-toyama.ac.jp

キーワード：郷土芸能，全国高等学校総合文化祭，部活動，音楽教育，コンクール

keywords: Local Performing Arts, National Art Festival of High Schools, Club Activities, Music Education, Contest

1. 総文の音楽コンクール部門

音楽系部活動に打ち込む高校生にとって夏はコンクールの季節である。高校生が目指す音楽コンクールと言えば，全日本合唱コンクール（全日本合唱連盟，朝日新聞社主催），NHK 全国学校音楽コンクール（NHK主催），全日本吹奏楽コンクール（全日本合唱連盟，朝日新聞社主催）が有名で，メディアも取り上げる。しかし，「文化部のインターハイ」と称される全国高等学校総合文化祭（以下「総文」と略す。文化庁，全国高等学校文化連盟，開催県の高等学校文化連盟主催）における郷土芸能や日本音楽のコンクールも見逃せない。総文では音楽系部門のうち郷土芸能（伝承芸能と和太鼓の2種目がある⁽¹⁾）と日本音楽の2部門はコンクール方式で実施される。両部門とも上位4校に選ばれると「優秀校東京公演」（会場は国立劇場大劇場）に出演する機会が得られる。今年（2017年）の総文は宮城県で開催され，郷土芸能部門には57校（伝承芸能21校，和太鼓36校），日本音楽部門には55校が参加し，ハイレベルの演技・演奏を披露した。優秀校東京公演への出演は伝承芸能から加計高校芸北分校（広島県）と北上翔南（岩手県），和太鼓から日本福祉大学附属（愛知県。私立）と松蔭（愛知県），日本音楽から創価（東京都。私立），佐沼（宮城県），名古屋市

立菊里（愛知県），三島北（静岡県），以上の高校が決まった。

合唱や吹奏楽の部員と同様，郷土芸能や日本音楽の部員にとってもコンクールは大きな目標であり，特に3年生には総文は部活動の集大成として思い出に残る舞台になる。日本社会の高齢化，過疎化が進む現在，高校生たちは日本の伝統的な音楽文化の継承のためにも有力な人的資源であり，高校の部活動は次世代の担い手の育成に貢献している。筆者は音楽の教科書は日本の音楽文化を学ぶには身近なツールと考えているが（村井，坂本2016），最近の高校音楽の教科書の中では『Joy of Music』（平成27年版高校3年生用。教育芸術社）が口絵で「郷土の伝統芸能 文化を受け継ぐ高校生たち」と題して浜田商業（島根県）郷土芸能部が演じる石見神楽「大蛇」，淡路三原（兵庫県）郷土部が演じる淡路人形浄瑠璃「戎舞」，北上翔南の鬼剣舞部が演じる「八人加護」を紹介している。この3校は総文には何回も出場している実力校である。

高校の部活動としての郷土芸能については，特定の地域を対象にした桂（2013）や呉屋（2017）の研究があるが，筆者は全国的な規模で実態を把握する必要があると考え，その目的のために総文を取り上げる。そこで，総文の郷土芸能部門の伝承芸能と和太鼓のうち前者を対象として最近10年間（2008年第32回群馬大会から2017年第41回宮城大会まで。この期間は暦年では平成20年代に相当する）の出

*富山大学人間発達科学部

場と成績の状況を大会記録（全国高等学校総合文化祭2009～2017a）と大会プログラム（全国高等学校総合文化祭2017b）から調査し、それに基づいて次世代の郷土芸能を担う高校生にとっての総文の意義と役割を考察する。なお、前述の音楽教科書に掲載された3校からもわかるように郷土芸能関係の部の名称はさまざまであるが、本稿では一括して郷土芸能部と呼ぶ。

2. 総文出場への道

日頃、郷土芸能部員は地元の保存会員などの外部講師による指導を受けて練習している。しかも、郷土芸能部員が他の部とかけもちで活動するのは珍しい話ではない⁽²⁾。郷土芸能部では学校行事で演奏するほか、地域の祭礼や各種イベント、福祉施設から

の出演依頼も多く、国際親善にも一役買っており、部員たちは学内外での公演をこなしながら演技・演奏の場に即応した表現力を身につけていく⁽³⁾。こうして郷土芸能部は時間をやりくりしながら練習を重ね、総文を目指すのである。

総文には都道府県の高等学校文化連盟が主催する高等学校総合文化祭郷土芸能部門（郷土芸能発表会という名称もある）で最高賞を得た1校が出場できる（ただし2校以上の合同チームでも出場可）。都道府県の高等学校文化連盟郷土芸能専門部への加盟校が10校以上あれば2校が出場できる。総文開催県では特別に3校まで出場できる。しかし郷土芸能部門は伝承芸能と和太鼓の2種目体制なので、郷土芸能部にとっては他校の郷土芸能部だけでなく和太鼓部もライバルである。表1には最近10年間における郷土芸能部門の伝承芸能と和太鼓の出場校

表1. 最近10年間における全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門（伝承芸能・和太鼓）出場校数の変化（2008年第32回群馬大会～2017年第41回宮城大会）

地区	都道府県	種目	回・開催年・開催県・校数										合計	
			32	33	34	35	36	37	38	39	40	41		
			2008 群馬	2009 三重	2010 宮崎	2011 福島	2012 富山	2013 長崎	2014 茨城	2015 滋賀	2016 広島	2017 宮城		
北海道	北海道	伝承芸能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
		和太鼓	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
東北	青森	伝承芸能	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	9
		和太鼓	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	岩手	伝承芸能	2	1	2	1	2	2	2	1	2	2	2	17
		和太鼓	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3
	秋田	伝承芸能	2	2	2	2	1	2	2	1	1	1	1	16
		和太鼓	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	宮城	伝承芸能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
和太鼓		0	0	0	0	0	0	0	1	0	交流1	交流1	2	
											交流1	交流1		
山形	伝承芸能	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	0	6	
	和太鼓	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	1	4	
福島	伝承芸能	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	4	
	和太鼓	0	1	1	0	1	0	0	1	1	0	0	5	
関東	茨城	伝承芸能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		和太鼓	1	1	1	1	0	1	1	1	0	1	8	
	栃木	伝承芸能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		和太鼓	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
	群馬	伝承芸能	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		和太鼓	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11
	埼玉	伝承芸能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		和太鼓	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
	東京	伝承芸能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		和太鼓	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
千葉	伝承芸能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	和太鼓	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10	

郷土芸能のハイスクール・デイズ

	神奈川	伝承芸能	1	1	0	1	1	0	0	1	1	1	7
		和太鼓	1	1	2	1	1	2	2	1	1	1	13
甲信越	山梨	伝承芸能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		和太鼓	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
	長野	伝承芸能	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
		和太鼓	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	新潟	伝承芸能	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
		和太鼓	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	富山	伝承芸能	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	11
和太鼓		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	
石川	伝承芸能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	和太鼓	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	3	
福井	伝承芸能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	和太鼓	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10	
東海	静岡	伝承芸能	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	4
		和太鼓	1	1	2	2	2	1	1	2	1	2	15
	岐阜	伝承芸能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		和太鼓	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
愛知	伝承芸能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	和太鼓	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20	
三重	伝承芸能	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	和太鼓	1	1	0	1	0	1	0	0	1	0	5	
近畿	滋賀	伝承芸能	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
		和太鼓	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
	奈良	伝承芸能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		和太鼓	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
	京都	伝承芸能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		和太鼓	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
大阪	伝承芸能	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10	
	和太鼓	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10	
和歌山	伝承芸能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	和太鼓	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10	
兵庫	伝承芸能	2	1	1	1	0	1	1	0	1	0	8	
	和太鼓	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	4	
中国	鳥取	伝承芸能	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	9
		和太鼓	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	島根	伝承芸能	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
		和太鼓	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	9
	岡山	伝承芸能	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
		和太鼓	0	1	1	1	1	1	1	0	1	1	8
広島	伝承芸能	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	4	
	和太鼓	0	1	1	1	1	0	1	1	交流1 2	交流1 0	8	
山口	伝承芸能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	和太鼓	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	
四国	徳島	伝承芸能	1	0	0	0	1	1	1	1	0	1	6
		和太鼓	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	3
	香川	伝承芸能	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	3
		和太鼓	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	7
愛媛	伝承芸能	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
	和太鼓	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	9	
高知	伝承芸能	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	4	
	和太鼓	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	6	
九州	福岡	伝承芸能	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
		和太鼓	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	9

	佐賀	伝承芸能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		和太鼓	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	3
	長崎	伝承芸能	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		和太鼓	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	11
	熊本	伝承芸能	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
		和太鼓	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
	大分	伝承芸能	1	1	0	0	1	1	0	1	1	1	7
		和太鼓	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	3
	宮崎	伝承芸能	1	1	1	0	1	0	0	1	0	0	5
		和太鼓	0	1	2	1	0	1	1	0	1	1	8
	鹿児島	伝承芸能	0	0	0	1	1	1	0	1	1	1	6
		和太鼓	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	8
沖縄	沖縄	伝承芸能	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	20
		和太鼓	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		伝承芸能	25	19	16	16	21	21	20	20	20	21	199
		和太鼓	28	35	37	35	32	37	32	36	38	36	346
		伝承芸能+和太鼓	53	54	53	51	53	58	52	56	58	57	545
		交流のみ伝承芸能+和太鼓	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	3

備考：第35回（2011年）開催県は福島県であったが東日本大震災の影響で郷土芸能部門は岩手県に会場を変更した。合同出場校は1校として数えた。

数を示す。全体的に見ると伝承芸能の出場校数は20前後で推移しているのに対し、和太鼓の出場校数は第32回群馬大会をのぞき⁽⁴⁾ 30代後半で推移し、伝承芸能を上回っている⁽⁵⁾。それでも都道府県によっては出場枠を和太鼓部ではなく郷土芸能部が占めるところもある。郷土芸能部と和太鼓部が1枠をめぐって出場を競り合うところもあれば2枠を分け合うところもある。この10年間の出場状況を地域別に概観するなら次のように言えるだろう。

北海道地区は2枠を和太鼓が独占している。東北地区は総じて郷土芸能部が強く、岩手県と秋田県は2枠を郷土芸能部が占めることもあった。（ただし秋田県は第39回滋賀県大会から出場枠が1枠となり郷土芸能部が出場している。）関東地区は東京都が2枠を和太鼓部が独占するのをはじめ、総じて和太鼓部が強い。ただし神奈川県では郷土芸能部が健闘して2枠を和太鼓部と分け合う年もある。甲信越地区では新潟県と富山県は1枠を郷土芸能部が独占する一方、山梨県と福井県は1枠を和太鼓部が独占する。石川県の1枠も和太鼓部が占めるが、この10年の出場は3回にとどまる。長野県は2年前から郷土芸能部または和太鼓部が出場しており、これは2018年の開催県としての準備の一環と見ることが出来る。東海地区では愛知県が2枠、岐阜県

が1枠を和太鼓部が独占する。静岡県も和太鼓部が優勢ではあるが2枠を郷土芸能部と分け合う年もある。近畿地区では奈良県、滋賀県、京都府、和歌山県は1枠を和太鼓部が独占する。大阪府はこの10年来2枠を郷土芸能部と和太鼓部とで分け合う。兵庫県は第34回宮崎大会から2枠から1枠に減り、その後は郷土芸能部と和太鼓部が出場を競り合っている。中国地区は山陰側では郷土芸能部が健闘しており、鳥取県では郷土芸能部が優勢で、島根県では2枠を郷土芸能部と和太鼓部が分け合っている。山陽側では岡山県も広島県も和太鼓部が優勢である。ただし広島県北部は神楽が盛んな土地柄なので2013年からは安芸高田市で「高校生の神楽甲子園」と銘打って全国の神楽部の交流会を行っている⁽⁶⁾。山口県は高等学校文化連盟に郷土芸能専門部が設立されていない。四国地区は4県とも1枠で、徳島県は郷土芸能部が優勢であり、香川県と愛媛県は和太鼓部が優勢である。高知県は郷土芸能部と和太鼓部が競り合っている。九州地区では福岡県と佐賀県と長崎県は和太鼓部が強く、宮崎県も和太鼓部が優勢である。一方、大分県は郷土芸能部が強く、熊本県はこの10年来2枠を郷土芸能部と和太鼓部とで分け合う。鹿児島県も2枠を郷土芸能部と和太鼓部が分け合う年が多い。沖縄地区では2枠を郷土芸能部

表 2. 全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門の伝承芸能出場校一覧
(2008年第32回群馬大会～2017年第41回宮城大会)

地区	都道府県	出場校と演目	回・開催年・開催県																			
			32	33	34	35	36	37	38	39	40	41										
			2008 群馬	2009 三重	2010 宮崎	2011 福島	2012 富山	2013 長崎	2014 茨城	2015 滋賀	2016 広島	2017 宮城										
北海道	北海道	なし																				
東北	青森	五所川原第一 [津軽三味線]	○								○	○									○	
		田子 [田子神楽]		○良	○優		○	○						○								
	岩手	伊保内 [江刺家神楽]																				○良
		岩泉 [中野七頭舞]										○秀										○良
		北上翔南 [鬼剣舞]	○秀		○秀		○優			○	○	○	○									○秀
		葛巻 [権現舞]		○																		
		雫石 [上駒野木参差踊]			○		○	○秀														
		大東 [行山流鹿踊]				○																
		花巻農業 [花農春日流鹿踊]	○								○											
		秋田	秋田和洋女子 [猿倉人形芝居]				○															
	羽後 [仙道番楽・西馬内盆踊り]			○				○	○													
	大曲農業 [梵天奉納]										○											
	男鹿海洋 [なまはげ太鼓]			○	○																	
	角館 [飾山囃子]		○			○秀																○
	土崎港ばやし保存会(合同) [土崎港ばやし]											○										
	由利 [秋田民謡]		○		○							○	○									○良
	宮城		志津川 [行山流水戸辺鹿子躍]																			
		仙台育英 [獅子舞]																				○
山形	村山産業 [むらやま徳内ばやし]	○	○		○	○				○										○		
福島	相馬農業 [宝財踊]	○									○										○	
	南会津 [早乙女踊]										○											
関東	群馬	関東学園大学附属・勢多農林・館林女子・新田曉(合同) [八木節]	○																			
	神奈川	愛川 [三増の獅子舞]		○																		
		厚木 [相模人形芝居]																				○

		厚木東 [相模人形芝居]				○				○			
		二宮 [相模人形芝居]	○				○					○	
甲信越	新潟	羽茂 [佐渡民謡]	○	○	○	○	○	○	○	○良	○優	○	
	富山	南砺平 [越中五箇山民謡]	○	○良	○良	○秀	○良	○良	○優	○	○	○	
		八尾 [越中おわら節]					○						
	長野	阿南 [新野の雪祭り]								○		○	
東海	静岡	横須賀 [三社祭礼の囃子]		○				○	○		○		
	三重	三重・久居農林(合同) [猟師町かんこ踊り]		○									
近畿	大阪	白頭学院建国 [韓国民俗芸能]	○良	○秀	○	○	○	○	○良	○	○	○	
	兵庫	淡路三原 [淡路人形浄瑠璃]	○	○		○			○良				
		神戸市立兵庫商業 [龍舞]	○		○				○秀			○優	
	滋賀	水口 [水口ばやし]							○	○			
中国	鳥取	智頭農林 [因幡麒麟獅子舞]	○										
		日野 [荒神神楽]			○			○				○	
		米子白鳳 [淀江さんこ節]				○	○		○	○	○		
	島根	浜田商業 [石見神楽]	○	○	○良		○	○	○	○	○	○	
		浜田水産 [石見神楽]				○良							
	岡山	高梁城南 [備中神楽]	○							○			
	広島	加計高校芸北分校 [芸北神楽]	○						○			○交流	○秀
		吉田 [芸北神楽]										○	
四国	徳島	小松島西高校勝浦校 [阿波人形浄瑠璃]					○						
		城西・鳴門・海部・国府養護学校(合同) [阿波踊り]	○										
		城北 [阿波人形浄瑠璃]							○				○
		鳴門 [阿波踊り]								○	○		
	香川	琴平 [こんびら船々]		○			○						
	愛媛	長浜 [伊予長浜豊年踊り]			○								
	高知	檮原 [津野山神楽]	○			○			○			○	

九州	福岡	小倉工業 [小倉祇園太鼓]					○						
	長崎	鶴明学園長崎女子 [龍踊り]						○					
	熊本	牛深 [牛深ハイヤ節]				○			○	○優	○良	○	
		鹿本農業 [山鹿灯籠]		○	○		○秀						
		苓明 [天草ハイヤ節]	○					○					
	大分	由布 [庄内神楽]	○優	○			○	○		○	○	○	
	宮崎	五ヶ瀬中等教育学校 [高千穂神楽]			○								
		高千穂 [高千穂神楽]	○	○				○		○			
	鹿児島	奄美 [奄美民謡]				○				○	○		
		沖永良部 [沖永良部民謡]						○	○				○
	沖縄	沖縄	嘉手納 [沖縄民謡]					○					
向陽 [沖縄民謡]						○							
南風原 [沖縄民謡]				○	○				○	○秀	○		
八重山 [八重山民謡]			○						○良	○		○	
八重山商工 [八重山民謡]			○良			○良	○		○		○		
八重山農林 [八重山民謡]				○秀	○					○良		○	

備考：○印は出場を示す。優は最優秀賞・文部科学大臣賞，秀は優秀賞・文化長官賞，良は優良賞の受賞を示す。
 出場校は現在の校名で「高等学校」は略す。[]内は演目。交流は開催県に与えられる交流枠での出場校。

が独占している。

こうして総文出場権を獲得した郷土芸能部を表2では地区別にまとめた。最近10年間の出場校の総数は67校を数える。地区別の内訳は北海道0校，東北21校，関東5校，甲信越4校，東海2校，近畿4校，中国8校，四国7校，九州10校，沖縄6校である。出場校の演目を見ると神楽あり，風流の獅子舞や鹿踊りあり，人形芝居あり，民謡あり，祭礼囃子や盆踊りありで，総文では日本の民俗芸能の多彩で豊饒な世界を垣間見ることができる。

さらに表3では総文に出場した郷土芸能部を出場回数順にまとめた。最近10年の連続出場校は羽茂（新潟県），南砺平（富山県），白頭学院建国（大阪府）の3校である。以下，9回出場の浜田商業（島根県），7回出場の北上翔南（岩手県）と由布（大分県），と続く。最近10年間の最優秀賞は2008年に由布（大分県），2010年に田子（青森県），2012年に北上翔南，2014年に南砺平，2016年に羽茂が受賞した。実は郷土芸能部が総文の最優秀賞を獲得するのは偶数年と決まっている。

表3. 出場回数からみた全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門伝承芸能の出場校
(2008年第32回群馬県大会～2017年第41回宮城県大会)

出場回数	学校数	高校名(所在地・受賞年)
10回	3	羽茂(新潟県・15良, 16優), 南砺平(富山県・09良, 10良, 11秀, 12良, 13良, 14優), 白頭学院建国(大阪府・13良, 14良, 15良)
9回	1	浜田商業(島根県・10良)
8回	0	
7回	2	北上翔南(岩手県・08秀, 10秀, 12優, 17秀), 由布(大分県・08優)
6回	1	村山産業(山形県)
5回	6	田子(青森県・09良, 10優), 由利(秋田県・17良), 米子白鳳(鳥取県), 牛深(熊本県・15優, 16良), 南風原(沖縄県・15秀), 八重山商工(沖縄県・08良, 11良)
4回	8	五所川原第一(青森県), 横須賀(静岡), 淡路三原(兵庫県・14良), 神戸市立兵庫商業(兵庫県・13秀, 16優), 橋原(高知県), 高千穂(宮崎県), 八重山(沖縄県・13良), 八重山農林(沖縄県・09秀, 15良)
3回	9	雫石(岩手県・13秀), 羽後(秋田県), 角館(秋田県・11秀), 相馬農業(福島県), 二宮(神奈川県), 加計高校芸北分校(広島県・17秀), 鹿本農業(熊本県・12秀), 奄美(鹿児島県), 沖永良部(鹿児島県)
2回	12	岩泉(岩手県・14秀, 16良), 花巻農業(岩手県), 男鹿海洋(秋田県), 厚木東(神奈川県), 阿南(長野県), 水口(滋賀県), 日野(鳥取県), 高梁城南(岡山県), 城北(徳島県), 鳴門(徳島県), 琴平(香川県), 荅明(熊本県)
1回	25	伊保内(岩手県・17良), 葛巻(岩手県), 大東(岩手県), 大曲農業(秋田県), 土崎港ばやし保存会(合同。秋田県), 志津川(宮城県), 仙台育英(宮城県), 南会津(福島県), 愛川(神奈川県), 厚木(神奈川県), 関東学園大学附属・勢多農林・館林女子・新田暁(合同。群馬県), 厚木(神奈川県), 八尾(富山県), 三重・久居農林(合同。三重県), 智頭農林(鳥取県), 浜田水産(島根県・11良), 吉田(広島県), 小松島西高校勝浦校(徳島県), 城西・鳴門・海部・国府養護学校(合同。徳島県), 長浜(愛媛県), 小倉工業(福岡県), 鶴鳴学園長崎女子(長崎県), 五ヶ瀬中等教育学校(宮崎県), 嘉手納(沖縄県), 向陽(沖縄県)

備考: 受賞年は西暦2000年代の下2桁のみ記す。

3. 総文郷土芸能部門の表彰

総文郷土芸能部門では伝承芸能は1校につき13分, 和太鼓は1校につき8分の演技・演奏を行い⁽⁷⁾, 審査の結果, 最優秀賞・文部科学大臣賞(1校), 優秀賞・文化長官賞(3校), 優良賞(4校)が授与される。ただし最優秀賞は奇数年は和太鼓, 偶数年は伝承芸能と交互に授与するというルールがある。優秀賞3校は奇数年は和太鼓1校, 伝承芸能2校に授与し, 偶数年は和太鼓2校, 伝承芸能1校に授与する。したがって奇数年の伝承芸能, 偶数年の和太鼓は優秀賞が最高賞で2校同時受賞となる。優良賞は奇数年・偶数年にかかわらず伝承芸能2校, 和太鼓2校に授与する。そして最優秀賞受賞校と優秀賞受賞校の合計4校が「優秀校東京公演」に出演する。2017年の宮城大会では, 奇数年なので最優秀賞は和太鼓から日本福祉大学附属, 優秀賞は和太鼓から松蔭, 伝承芸能から加計高校芸北分校と北上翔南, 優良賞は伝承芸能から伊保内と由利, 和太鼓から伊豆総合と芥川が受賞した。

近年は少子化に伴って公立校では高校の整理・統合が加速しており, 総文出場校の中にもこの10年間でも整理・統合の対象になった高校がある⁽⁸⁾。それにもかかわらず, 毎年の総文には全国から60近くの高校が出場するのを見ると, 高校生たちの熱演に応えるために最優秀賞に関する伝承芸能・和太鼓の交互表彰ルールは見直してもよいのではないかと考えさせられる。「優秀校東京公演」への出場は上位4校なので, 最優秀賞は伝承芸能と和太鼓に毎年1校ずつ, 優秀賞も伝承芸能と和太鼓に毎年1校ずつ授与するというのも一つの方法であろう。

4. 3枠をめぐる総文開催県の対応

総文開催県は開催の2年前に発表される。総文の各部門の会場には翌年, 翌々年の開催県の視察団が訪れ, 地元開催に向けて対策を練る。郷土芸能部門の場合, 総文に出場できるのは都道府県から1校または2校であるが, 開催県は3校まで出場できるので, この特別な1または2の増枠をどのように

使うかは興味深く、開催各県の対応をみてみよう。

2008年大会の群馬県は伝承芸能1校（勢多農林他3校合同）、和太鼓2校（藤岡中央、高崎）が出場した。群馬県は出場枠1なので両種目で1校ずつ増やした。しかし伝承芸能の出場は群馬大会で終わっている。2009年大会の三重県は伝承芸能1校（三重・久居農林合同）、和太鼓1校（昴学園）が出場したが、両種目での出場は三重大会で終わり、近年は出場が途絶えている。2010年大会の宮崎県は伝承芸能1校（高千穂）、和太鼓2校（宮崎工業、富島）が出場した。宮崎県は2枠なので和太鼓を1校増やした。2011年大会の福島県は東日本大震災の影響により出場自体を見送らざるを得なかった。2012年大会の富山県は伝承芸能2校（南砺平、八尾）、和太鼓1校（砺波工業）が出場した。富山県は出場枠1なので両種目で1校ずつ増やしたが、和太鼓の出場は富山大会で終わっている。2013年大会の長崎県は伝承芸能1校（鶴鳴学園長崎女子）、和太鼓2校（諫早農業、島原農業）が出場した。初めての両種目での出場になったが、伝承芸能の出場は長崎大会で終わっている。2014年大会の茨城県は県の郷土芸能専門部への加盟校が少ないためか例年どおりの出場枠1で和太鼓1校（鹿島灘）が出場した。2015年大会の滋賀県は伝承芸能1校（水口）、和太鼓1校（MIHO美学院中等教育学校）が出場し、初めて両種目での参加となった。伝承芸能の出場は滋賀大会で終わったが、和太鼓のMIHO美学院の方は今年の宮城大会まで連続出場している。2016年大会の広島県は伝承芸能1校（吉田）、和太鼓2校（山陽、広島文化女子大学附属）が出場した。広島県は出場枠2なので、和太鼓を1校増やすとともに、地域交流枠（オープン参加）で伝承芸能1校（加計高校芸北分校）を出場させた。なお加計高校芸北分校は翌年の宮城大会では優秀賞（奇数年なので最高賞）を獲得した。2017年大会の宮城県は郷土芸能専門部の設立が2014年と近年であり、伝承芸能1校（仙台育英）、和太鼓2校（西山学院、明成）と初めて両種目での参加となった。さらに地域交流枠で伝承芸能1校（志津川）、和太鼓1校（宮城県農業）を出場させた。

以上、開催県は特例の出場枠3を目一杯に使い、伝承芸能と和太鼓の両種目を揃えて総文に出場する傾向があり、総文の地元開催を機に活動を始めた部もある。

浜田商業の郷土芸能部の場合、2007年島根大会郷土芸能部門の浜田市開催が決定したことを受けて島根県教育委員会が浜田商業を文化推進校に指定したので、同校は2005年に郷土芸能部を創部し、部員獲得のための推薦入試も始めた。しかし、郷土芸能部は島根大会では出場を逃してしまう。郷土芸能部門には同じ浜田市内から浜田水産が出場し、浜田商業は裏方の仕事に回った。このときの経験に奮起した郷土芸能部は翌年の群馬大会で初出場を果たし、現在では総文の常連校の一つに数えられる（島根県立浜田商業高等学校2016）。総文の地元開催のために期間限定で活動する部もないわけではないが、総文終了後も活動を続ける部もあることはやはり注目したい。

5. 採点競技としての郷土芸能とその課題

日本には各地に多種多様な郷土芸能が伝承されているが、担い手の高齢化や過疎化による地域の衰退による維持の困難に見舞われており、若い世代では郷土芸能を古臭いと見なす向きもある。そうした状況の下で部活動に郷土芸能を選んだ高校生たちのために、総文での郷土芸能コンクールは彼らのモチベーションを高め、誇りを持たせている。また総文は都道府県の持ち回りで開催されるので、開催県としては面目を施すためにも伝承芸能と和太鼓の2種目3校で出場するように準備を進める。総文は若い世代に向けて郷土芸能の伝承を受け継ぎ、技能を向上させるために一定の効果があると言える。ただし総文がより重視するのは郷土芸能部同士の競い合いから生まれる新たな創造である。

総文で演じられるのは採点競技としての郷土芸能である。そのため、すべての出場校に同じ屋内ホールの舞台上で一律13分以内で演技を課す。この条件では地元で伝わる民俗芸能の演技とは違って当然である。総文で求められる郷土芸能とはどのようなものか。この点については審査員の次のような講評が参考になる。

「伝承芸は比較して優劣はつけられない。その芸の演者・演奏者・構成演出者の心がひとつとなって、舞台表現の醍醐味を観客にいかにつたえるか。その表現力の妙を見せて貰った」（2011年福島大会審査員田中英機。全国高等学校総合文化祭2012：132）

総文での伝承芸能は演技・演奏の技能はもちろん

大事であるが、各地の民俗芸能をその特徴を理解した上で13分以内に収まるように舞台化し、観客に十分にアピールできる構成力・演出力が重要になる。その点、総文に出場するほどの郷土芸能部はそれ相応の舞台表現を作り上げており、「全体的に見てレベルが高く、審査は難航しました」（2010年宮崎大会審査員中村規。全国高等学校総合文化祭2011：72）となる。しかし音楽については注文が付き、次のような講評がある。

「出方のお囃子で、もう少し踊りを盛り上げる工夫が欲しいと思いました。これは邦楽の問題でもあり、邦楽をもっと勉強して欲しいと思います。作品構成は見事でした。」（2008年群馬大会審査員三隅治雄。全国高等学校総合文化祭2009：101）

「お囃子は祭礼の賑わいを、獅子舞は高校生らしさを、人形芝居は三味線の音を、それぞれの研究課題として練習に取り組んでくださることを願っています。」（2009年三重大会審査員中村規。全国高等学校総合文化祭2010：75）

近年の郷土芸能部門の課題は音楽面の強化にあると言えるだろう。そもそも、日本の伝統的な舞台芸能では能楽も文楽も歌舞伎も舞や芝居の演者と歌や楽器の演奏者は同じ舞台に乗っている。総文の郷土芸能でも同じ舞台に乗っている。なぜなら演奏者は演者に対して西洋音楽で言う伴奏ではなく丁々発止の関係にあり、演奏者は演者の動きに即応しながら発声・発音し、舞台の見所、聞かせ所を作り上げる存在だからである。そのような「邦楽」の発想を理解し、演奏技術と表現を工夫することは実はコンクール形式の総文郷土芸能部門で高得点を狙うために避けては通れないのである。

注.

(1) 全国高等学校文化連盟は郷土芸能部門の伝承芸能と和太鼓について明確に規定しているわけではないが、出場校の演目から推察すると伝承芸能は地元で伝わる祭礼や行事での芸能を演じ、和太鼓は伝承曲にとどまらず各地の歴史や伝説に基づく創作曲も演奏できる。

(2) 実例をあげると、南砺平の郷土芸能部員は他の部にも所属しなければならない。

taira-h.el.tym.de.jp 参照。

加計高校芸北分校の神楽部員は運動部などの第一クラブ活動終了後、有志による第二クラブ活動と

して練習する。

www.kakegeihoku-h.hiroshima-c.ed.jp 参照。

- (3) 一例をあげると由布の郷土芸能部員は神楽を舞うときに総文では「動きをそろえて、かっこよく見えるように」、地元の神楽殿での公演では「その場の雰囲気を楽しみながら」と演じ分け、どちらも大切にするという（渡辺2017）。
- (4) 第32回群馬大会では伝承芸能25校、和太鼓28校と両種目の出場校数が拮抗していた。大会記録には「例年になく」（全国高等学校総合文化祭2009：94）伝承芸能の出場が多いと特記している。
- (5) 和太鼓部の出場数の増加には和太鼓打ちの派手なパフォーマンス性に魅かれたり、世界的に活躍する和太鼓集団「鼓童」の影響などが考えられるだろう。
- (6) 2017年7月29、30日開催の「第7回高校生の神楽甲子園」には広島県から5校（加計高校芸北分校、西城紫水、千代田、可部、吉田）、島根県から4校（浜田商業、矢上、邇摩、浜田養護学校）、岩手県から2校（伊保内、葛巻）、鳥取県から2校（日野、江津）、宮崎県から1校（高千穂）、静岡県から1校（遠江総合）、富山県から1校（八尾）、合計16校が出演した。加計高校芸北分校、浜田商業、伊保内は翌8月3、4、5日には宮城県での総文にも出場し、タイトなスケジュールになった。
- (7) 2015年の滋賀大会から従来の伝承芸能1校15分、和太鼓1校10分の演技時間を短縮した。
- (8) 表2の高校の中で最近10年の間に再編・統合した高校を挙げると村山産業（旧村山農業。2014年東根工業と統合）、小松島西高校勝浦校（旧小松島西。2012年勝浦と統合）の2校である。

参考文献.

- 桂博章（2013）「郷土芸能部に所属する秋田県の高
校生の意識」秋田大学教育文化学部研究紀要 教
育科学部門，68，pp.1-8
- 呉屋淳子（2017）『「学校芸能」の民族誌－創造さ
れる八重山芸能－』東京：森話社
- 島根県立浜田商業高等学校（2016）『創立五十周年
記念誌』
- 村井宏志，坂本麻実子（2016）「小学校音楽科にお
ける東アジア民族音楽鑑賞指導での教科書活用の

提言－教師の指導力の向上を目的として－」富山
大学人間発達科学研究実践総合センター紀要 教
育実践研究, 11, pp.65－72

渡辺純子(2017)「楽しんで舞い伝える」2017年8
月25日付朝日新聞朝刊記事

※総文の大会記録と大会プログラムは次のとおり。
全国高等学校総合文化祭(2009)『第32回全国高等
学校総合文化祭ぐんま総文 上州に舞え創造の風
群馬大会記録集』

同(2010)『第33回全国高等学校総合文化祭 全国
高総文祭みえ'09記録集』

同(2011)『第34回全国高等学校総合文化祭記録集
全国高総文祭みやぎ2010』

同(2012)『第35回全国高等学校総合文化祭大会記
録集 ふくしま総文2011』

同(2013)『第36回全国高等学校総合文化祭 全国
高総文祭とやま2012大会記録集』

同(2014)『第37回全国高等学校総合文化祭 2013
長崎しおかぜ総文祭大会記録集』

同(2015)『第38回全国高等学校総合文化祭 いば
らぎ総文2014大会記録集』

同(2016)『第39回全国高等学校総合文化祭 2015
滋賀びわこ総文大会記録集』

同(2017a)『第40回全国高等学校総合文化祭 2016
ひろしま総文大会記録集』

同(2017b)『第41回全国高等学校総合文化祭みや
ぎ総文2017 部門プログラム郷土芸能』

(2017年10月20日受付)

(2017年12月20日受理)